

事務事業分析シート（平成21年度）

No1

事務事業名	保健師地区活動	部課名	健康部健康推進課	課長名	小竹桃子
		担当者名	松本承子	内線	432
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（21年度）	保健師地区活動(01-02-05)				
事務事業の種類	新規事業	(21年度 20年度)	建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	22年度	根拠法令等	地域保健法、健康増進法
終期設定	有	無	年度		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	生涯健康都市[]			
	政策	生涯健康で生き生きと生活できるまちの実現[01]			
	施策	区民の健康づくりの推進[01-01]			
目的	家庭や地域を訪問し、関係機関との連携により具体的な支援をすることで、区民の健康問題解決をはかる。さらに、様々な地区活動を通して、区民の生活の質の向上、健康レベルの向上を図る。				
対象者等	1 健康問題をもつ区民（妊産婦・乳幼児・生活習慣病等） 2 一般区民(自主グループ・各種教室修了者の会・PTA・各種患者の会・町会等)				
内容	1 個別の健康問題をもつ区民とその家族に対しては、家庭訪問、面接相談、電話相談や関係機関との連携により、具体的に支援し、問題解決を図る。 2 地域の共通した問題に対しては、地域団体・諸グループ等への支援、啓発活動を通し、地域での健康問題の解決に取り組む。 3 地区活動を通し、健康問題の解決、疾病の予防、健康的な環境、まちづくりを推進していく。				
経過	・平成10年度 老人保健法に基づく高齢者・認知症・難病患者の在宅ケアに関する事業は、高齢者福祉課に移行。保健所は精神保健福祉、子育て支援、健康づくり事業の強化体制を整備した。 ・平成12年度 組織改正により保健と福祉部門が統合し、総合的なサービスの提供ができる体制がつけられた。高齢者の健康づくり、ねたきり予防、各種保健サービス事業は高齢者保健福祉課に移行。精神障害者や難病患者等の各種申請事務は、障害者福祉課に移行。保健所は、地域ぐるみ健康づくり推進事業、在宅難病患者支援、子育て支援、母子保健、精神保健福祉、結核を含む感染症予防などに取り組んだ。 ・平成17年度 結核感染症担当保健師を専任とし、健康危機への即時的、専門的な対応ができる体制とした。 ・平成18年度組織改正により、保健所は健康部として福祉部門と分離し、精神保健福祉相談に関する事業と在宅難病患者支援は、障害者福祉課に移行し保健師を配置した。				
必要性	疾病を抱えた区民への保健師による家庭訪問・相談等は不可欠である。また、健康づくり推進のための地区活動は、今後ますます重要となる。				
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	
予算額	224	215	192	196	195	195	195	
決算額（21年度は見込み）	222	214	192	193	181	184	195	
人件費			35,166	11,102	13,664	18,634		
【事務分担量】（%）			408	130	160	220		
合計（+）	222	214	35,358	11,295	13,845	18,818	195	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	222	214	35,358	11,295	13,845	18,818	195	
実績の推移	事項名	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
	家庭訪問	1,254	1,350	1,670	1,085	932	1,920	1,500
	その他の地区活動 (電話・面接・関係機関)	10,534	12,670	11,790	4,949	4,728	4,769	5,000
								(見込み)

事務事業分析シート（平成21年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成19年度（決算）		平成20年度（決算）		平成21年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	一般需要	計測検査物品等	181		計測検査物品等	184	計測検査物品等

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		18年度	19年度	20年度	21年度	目標値 (22年度)	
標	家庭訪問	1,085	932	1,920	1,500	1,600	延数
	その他の地区活動	4,949	4,728	4,769	5,000	6,500	延数

（問題点・課題 指標分析）	<p>1、平成20年度に区民の健康づくりを効果的かつ強力に推進するための体制を整備するため、保健師を増員したが、その人材育成を図る必要がある。</p> <p>2、新型インフルエンザ対応のため、必要時、担当課から保健師について派遣要請がある。</p>
他区の実況	（ 実施 22 区 未実施 区 ）

問題点・課題の改善策検討	
平成22年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
職場内研修・職場外研修の充実・強化	保健師の資質の向上を図ることができる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
重点的に推進	重点的に推進	対象者の処遇とともに、地域特性の把握と区民の協働による健康づくりに欠かせない活動であり、優先度の高い事業である。

議 会 要 旨 状	
-----------------------	--

事務事業分析シート（平成21年度）

No1

事務事業名	地域ぐるみ健康づくり推進事業費	部課名	健康部健康推進課	課長名	小竹桃子
		担当者名	栗山幸久	内線	433
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（21年度）	地域ぐるみ健康づくり推進事業費(01-06-01)				
事務事業の種類	新規事業	(21年度 20年度)	建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	12年度	根拠	
終期設定	有	無	年度	法令等	
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	生涯健康都市[]			
	政策	生涯健康で生き生きと生活できるまちの実現[01]			
	施策	区民の健康づくりの推進[01-01]			
目的	健康づくりを推進するためには、個人の自覚と実践を基本としつつ、社会全体として推進していくための環境・仕組みを改善・整備する必要がある。地域全体の健康度向上のために、一次予防の推進と健康な地域づくりを併せて行っていく。				
対象者等	区内在住・在勤者、健康づくり活動グループ				
内容	<p>平成19年3月に策定した荒川区健康増進計画に掲げる、地域ぐるみの健康づくりの推進、子どもの健康増進、働き盛りの健康増進及び健康づくりを支援する環境整備という4つの体系に従い、「生涯健康都市あらかわ」の実現を目指す。具体的には、この計画に盛り込まれた施策を具体化し、実施していくために、単年度ごとに策定する生涯健康都市づくり戦略により定める、次の二つの重点プランを中心に取り組んでいる（「延ばせ健康寿命」プランは本事務事業では取り扱わない）。</p> <p>(1)「減らせ早世」プラン 禁煙チャレンジ応援プラン、受動喫煙防止メッセージタグ推進事業、あらかわ満点メニューの開発、健康応援店の拡充</p> <p>(2)「増やせ健康満足度」プラン 新生児全員訪問事業、子育てハッピー講座、健康応援店店頭でのどこでも健康教室・健康相談の実施、健康子育てサポーター育成講座、荒川区健康普及啓発事業の実施</p> <p>重点プラン以外で、本事務事業で行う事業は次のとおりである。 健康づくり自主グループ活動支援、どこでも健康教室・健康相談</p>				
経過	平成13年3月	区民健康白書の作成			
	平成14年3月	健康生活実践ガイド（「健康日本21地方計画」）の策定			
	8月	健康増進法制定			
	平成16年8月	荒川区健康週間の制定			
	平成17年6月	生涯健康都市戦略本部の設置			
	10月	荒川区生涯健康都市宣言の策定			
	平成18年3月	生涯健康都市づくり戦略(18年度版)の策定			
	平成19年3月	健康増進計画の策定			
必要性	いつまでもいきいきと健康に暮らすことは区民誰もが願うことである。そのため、区は、区民の健康増進を図るべく、まちをあげて健康づくりを進める環境を整えていく必要がある。				
実施方法	(2一部委託) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)				

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
		15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
予算額		5,589	10,365	7,266	24,012	31,455	34,361	30,523
決算額(21年度は見込み)		5,361	7,302	6,665	15,586	23,351	25,088	30,523
人件費				33,023	22,732	21,898	27,478	
【事務分担量】(%)				394	295	285	220	
合計(+)		5,361	7,302	39,688	38,318	45,249	52,566	30,523
国(特定財源)					92	160	0	0
都(特定財源)					161	160	626	312
その他(特定財源)								
一般財源		5,361	7,302	39,688	38,065	44,929	51,940	30,211
実績の推移	事項名	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
	健康づくりグループ累計数	40	44	91	109	116	131	140
	どこでも健康教室(団体数)	105回/3175	74回/2659名	65回/2408名	149回/4292店	138回/5573名	106回/4112名	90回/3500名
	どこでも健康教室(イベント版)	7回/2000名	9回/3921名	17回/3100名	8回/1988店	12回/3788名	16回/4406名	15回/3000名
	健康応援店認証数	130店	44店/174店	21店/143店	29回/170店	63店/224店	14店/227店	50店/278店
あらかわ満点メニュー提供店数				41店/41店	43店/76店	44店/89店	50店/149店	

事務事業分析シート（平成21年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成19年度（決算）		平成20年度（決算）		平成21年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報酬	非常勤職員報酬・付加報酬	2,182	非常勤職員報酬・付加報酬	6,956	非常勤職員報酬・付加報酬	6,956
共済費	非常勤社会保険料	262	非常勤社会保険料	827	非常勤社会保険料	856	
報償費	健康週間講師謝礼等	1,325	健康週間講師謝礼等	877	健康週間講師謝礼等	1,266	
一般需用費	健康週間ポスター等	4,139	健康週間ポスター等	3,862	健康週間ポスター等	6,786	
委託料	満点メニュー開発支援	6,686	満点メニュー開発支援	4,255	満点メニュー開発支援	7,602	
使用料及び賃借料	健康週間会場使用料	173	健康週間会場使用料	161	健康週間会場使用料	404	
負担金補助及び交付金	満点メニュー普及助成	6,298	満点メニュー普及助成	6,666	満点メニュー普及助成	6,000	

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		18年度	19年度	20年度	21年度	目標値 (22年度)	
喫煙率	喫煙率	28.2	26.5				誕生日健診受診者の数値
肥満率	肥満率	24.2	23.0				同上

（問題点・課題分析）	<p>早世の10%減少等の戦略目標の達成に向け、健康増進計画に盛り込まれた区民の健康状況を示す各種の行動目標や施策目標を継続的に把握するとともに、その動向を踏まえ、毎年度策定する「荒川区生涯健康都市づくり戦略」に的確に反映させることで、区民の健康づくりを総合的に推進する必要がある。</p>
他区の実況	<p>（実施 22 区 未実施 区）</p> <p>健康日本21地方計画はすべての区で策定済みであり、各区が工夫を凝らしながら健康づくり事業を展開中</p>

問題点・課題の改善策検討	
平成22年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
重点的に推進	重点的に推進	健康づくりを支援する環境整備や健康的な生活習慣形成への支援を行う事業であり、優先度の高い事業である。

議会議況（要旨）	
----------	--

事務事業分析シート（平成21年度）

No1

事務事業名	あらかわNO！メタボ大作戦事業	部課名	健康部健康推進課	課長名	小竹桃子
		担当者名	稲葉裕子	内線	432
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（21年度）	あらかわNO！メタボ大作戦事業(01-07-01)				
事務事業の種類	新規事業（21年度 20年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	20年度	根拠法令等	健康増進法、地域保健法
終期設定	有	無	年度		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	生涯健康都市[]			
	政策	生涯健康で生き生きと生活できるまちの実現[01]			
	施策	区民の健康づくりの推進[01-01]			
目的	早世の予防を図るため、食生活、運動、飲酒、喫煙などの生活習慣改善の意識啓発を図り、メタボリック症候群を予防する。				
対象者等	主に青壮年期の区民				
内容	<p>1 NO！メタボチャレンジャー メタボリック症候群予防に取り組むNO！メタボチャレンジャーを募集し、チャレンジの経過を区報・HP等で公表することで、あらかわNO！メタボ大作戦を広く区民にPRする。 20年度30人 21年度100人</p> <p>2 メタボ情報提供 がん検診等の来所者や健康づくり事業参加者等に対し、メタボリック症候群予防についての情報提供を行うため、メタボ情報提供コーナーをがん予防・健康づくりセンター内に設置する。</p> <p>3 NO！メタボ測定 がん予防・健康づくりセンターにて、木曜日午前にメタボリック症候群予防に関する測定と相談を行う。 ・測定項目：血圧・BMI・体脂肪率・骨密度測定・呼吸機能・HBA1c 等 ・相談：保健相談・栄養相談・禁煙相談 等</p> <p>4 どこでもNO！メタボ測定 関係機関等の協力を得て区内拠点を設け、出張にてメタボリック症候群予防に関する測定と相談を行う。</p> <p>5 NO！メタボサポートメニュー：訪問や教室など様々な機会に紹介する。 、 は委託により実施。 運動サポートメニュー：専用歩数計を貸与し、測った歩数をパソコンに取り込みwebサイト上で歩数管理を行う。 食生活サポートメニュー：利用者の1日分の食事をデジタルカメラ等で撮影した内容から、食生活診断及びアドバイスを行う。 禁煙相談：保健師による禁煙相談、新生児訪問時等に喫煙者のいる家庭へ「リセット禁煙」書籍の配布、及び禁煙治療費にかかる費用の一部助成を行う。</p> <p>6 あらかわ健康づくり実践ガイドの活用 あらかわ健康づくり実践ガイドを活用してNO！メタボ大作戦の取り組みをすすめる。</p> <p>7 乳・子宮がん検診時の予防教育 乳・子宮がん検診時に予防教育及び骨密度測定を実施し、女性の生活習慣改善を働きかける。</p>				
経過					
必要性	生活習慣の改善による青壮年期の早世の減少とメタボリックシンドロームの予防				
実施方法	(二部委託) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	
予算額						18,362	10,471	
決算額（21年度は見込み）						17,257	10,471	
人件費						16,094		
【事務分担量】（%）						220		
合計（ + ）	0	0	0	0	0	33,351	10,471	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	0	0	0	0	0	33,351	10,471	
実績の推移	事項名	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
	あらかわNO!メタボチャレンジャー						7回/194	7回/490
	NO!メタボ測定						44回/886	50回/1000
	どこでもNO!メタボ測定						18回/304	48回/810

事務事業分析シート（平成21年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成19年度（決算）		平成20年度（決算）		平成21年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
				一般賃金	1,755	一般賃金	3,238
				講師謝礼等	202	講師謝礼等	213
				一般需用費	3,748	一般需用費	4,501
				役務費	15	役務費	152
				委託料	9,730	委託料	2,302
				備品購入費	1,808	使用料賃借料	65

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		18年度	19年度	20年度	21年度	目標値 (22年度)	
標	BMI25以上の人の割合（男性）	23.4%	26.9%	33.1%	-		健康意識に関するアンケートより（20年度回答者389名）
	BMI25以上の人の割合（女性）	15.8%	16.0%	21.5%	-		健康意識に関するアンケートより（20年度回答者389名）
	運動習慣のある人の割合（男性）	51.3%	49.4%	53.9%	-		健康意識に関するアンケートより（20年度回答者389名）
	運動習慣のある人の割合（女性）	52.5%	56.7%	50.9%	-		健康意識に関するアンケートより（20年度回答者389名）
	野菜を毎日摂る人の割合・男性 (淡色野菜/緑黄色野菜)	27.8% /15.8%	25.0% /17.5%	27.6% /18.5%	-		健康意識に関するアンケートより（20年度回答者389名）
	野菜を毎日摂る人の割合・女性 (淡色野菜/緑黄色野菜)	36.6% /31.1%	41.7% /30.5%	43.1% /30.7%	-		健康意識に関するアンケートより（20年度回答者389名）

問題点・課題 (指標分析)	本事業を効果的・効率的に進められるよう、様々な健康意識レベルを持つ対象者に合わせ、対象者の健康意識に応じた適切な働きかけ方や事業実施方法を検討する必要がある。
他区の実況	（ 実施 区 未実施 区 ）

問題点・課題の改善策検討	
平成22年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
イベントやがん検診、各種教室参加時、地区活動等様々な機会に広く普及啓発を図るとともに、サポートメニュー等を紹介していく。	健康づくりについて機運を高めるとともに、具体的な健康行動の実践に繋がりがやすくなる。
NO！メタボチャレンジャーの実践とPR活動を区民による普及啓発活動につなげる。	区民の身近な話題になり、区民一人ひとりの身近な健康課題として動機付けができる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
重点的に推進	重点的に推進	早世予防という健康上の重要課題を解決するための事業であり、優先度の高い事業である。

議 会 要 旨 状	
-----------------------	--

事務事業分析シート（平成21年度）

No1

事務事業名	健康手帳交付費	部課名	健康部健康推進課	課長名	小竹桃子
		担当者名	田中 匠	内線	416
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（21年度）	健康手帳交付費				
事務事業の種類	新規事業（21年度 20年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	57年度	根拠法令等	健康増進法第19条の2
終期設定	有	無	年度		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	生涯健康都市[]			
	政策	生涯健康で生き生きと生活できるまちの実現[01]			
	施策	区民の健康づくりの推進[01-01]			
目的	健康診査の記録、日常生活における健康の保持等のために必要な事項を記載し、自らの健康管理と適切な医療の確保に資するため交付する。				
対象者等	特定健診・健康相談・健康教育等を受けた40歳以上の者のうち、健康手帳の交付を希望する者				
内容	<p>特定健診等の健診受診者や、健康教育・健康相談等を受けた者のうち、40歳以上の者で希望する者に交付する（40歳以下の者にはイベント等で配布）。</p> <p>手帳の内容及び利用は次のようなものである。</p> <p>生活習慣病予防や健康づくりに関する保健情報を提供し、区民の健康増進に役立てる。</p> <p>各種健康診査の結果や血圧測定等の結果を記録し、個々の健康管理に役立てるとともに、生活習慣病予防のために活用する。</p> <p>医療の記録に係るページの各欄は、保険医療機関、保険薬局、介護保険施設等において記載する。</p> <p>なお、平成15年度作成分より「荒川区健康づくり宣言書」を、平成17年度作成分より「荒川区生涯健康都市宣言」を刷り込むこととした。</p>				
経過	<ol style="list-style-type: none"> 1 区民の生活習慣改善及び病気予防に役立てることを目的に、最新の保健医療情報を盛り込む等の改訂を行うなど、区の創意工夫を生かして作成してきている。 2 国の通知にもとづき、医療の受給資格を証するページ及び医療の記録に係るページは、国の定める様式による。 3 平成14年10月、老人医療制度の一部改正に伴い、同年10月1日から老人医療の対象者が70歳以上から75歳以上に引き上げられた（健康手帳の配付対象者も同様）。 4 平成20年度より健康増進法に基づく事業に移行し、20年度は、区独自に区民向けの健康ガイドブックを作成、発行する。このため、20年度の健康手帳の発行は見送った。 5 平成21年度健康実践ガイドブックの発行に伴い、健康手帳の発行を取り止める。 				
必要性	健康実践ガイドブックの発行に伴い、健康手帳の発行の必要性は低い。				
実施方法	（1直営）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 健康診査、健康相談及び健康教育等の参加者のうち40歳以上で希望する者に交付する。				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	
予算額	1,015	595	543	543	543	696	-	
決算額（20年度は見込み）	678	398	357	54	353	0	-	
人件費			431	0	427	424		
【事務分担量】（%）			5	0	5	5		
合計（+）	678	398	788	54	780	424	0	
国（特定財源）	114	90	88	87	120	0		
都（特定財源）	115	85	109	5	120	0		
その他（特定財源）								
一般財源	449	223	591	-38	540	424	0	
実績の推移	事項名	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
	65歳以上交付者数	1,453	510	562	286	1,177		
	40～64歳交付者数	2,799	2,104	2,744	2,732	2,269		
	交付者数							

事務事業分析シート（平成21年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成19年度（決算）		平成20年度（決算）		平成21年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	一般需用費	手帳印刷	353	手帳印刷ほか	0		0

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		18年度	19年度	20年度	21年度	目標値 (22年度)	
	手帳交付者数	3,018	3,446	0	0		

（問題点・課題分析）	
他区の実況	（ 実施 区 未実施 区 ）

問題点・課題の改善策検討	
	平成22年度以降に取り組む具体的な改善内容
	改善により期待する効果

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	休止・完了	健康増進法に基づく事業であるが、あらかじめ健康づくり実践ガイドの配付をもって代え、廃止した。

議会議況（要旨）	
----------	--

事務事業分析シート（平成21年度）

No1

事務事業名	栄養相談活動	部課名	健康部健康推進課	課長名	小竹桃子
		担当者名	根本直子	内線	4 2 3
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（21年度）	栄養教室（01-01-01）				
事務事業の種類	新規事業（21年度 20年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	50年度	根拠	老人保健法第14条、第20条、健康増進法第17
終期設定	有	無	年度	法令等	条、第18条
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	生涯健康都市[]			
	政策	生涯健康で生き生きと生活できるまちの実現[01]			
	施策	区民の健康づくりの推進[01-01]			
目的	健康づくりの基本である栄養・運動・休養などの生活習慣を日常生活の中で正しく実践できるように、栄養を中心に健康についての知識や具体的な方法を示し、各人の行動変容を支援する。				
対象者等	健康づくりのために食生活改善を希望する区内在住在勤者（家族を含む）				
内容	食生活改善を希望する区民とその家族に対し、個別に栄養相談を行い具体的に支援し栄養改善を図る。栄養講習会（どこでも健康教室）として区民からの依頼により講習会を開催し食生活改善を図る。				
経過	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和58年度：誕生日健診開始と同時にフォロー事業として実施 ・平成13年度：栄養教室を病態別教室と高齢者別に分けて実施 ・平成15年度：誕生日健診フォロー事業と栄養相談に組み替えて実施 ・平成15年度：病態別教室は健康教室に組み替えて実施 ・平成18年度：健康教室は地域ぐるみ健康づくり推進事業の子育て支援サポーター養成講座として実施 また高齢者対象については高齢者福祉課と連携して低栄養予防教室、低栄養予防講演会を実施 ・平成20年度：誕生日健診終了のためフォロー事業も廃止 				
必要性	栄養＝「食」は、区民の健康づくりを推進する上で重要なファクターであり、健康づくり推進のため栄養相談支援活動はますます必要になる。				
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 栄養相談：予約制による。 栄養講習会：区民の希望により場所、日時、内容を決め実施する。				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	
予算額	324	283	298	155	182	155	155	
決算額（21年度は見込み）	297	276	293	116	167	133	155	
人件費			2,413	0	1,281	1,271		
【事務分担量】（%）			28	0	15	15		
合計（+）	297	276	2,706	116	1,448	1,404	155	
国（特定財源）	220	330	127	184	160	0	0	
都（特定財源）	225	330	105	184	160	55	718	
その他（特定財源）								
一般財源	-148	-384	2,474	-252	1,128	1,349	-563	
実績の推移	事項名	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
	栄養相談回数	36	39	39	40	41	49	50
	栄養相談人数	279	270	229	300	255	243	250
	生活習慣病予防教室回数	10	10	12				
	生活習慣病予防教室参加人数	154	177	232				
	住民からの依頼による講習会回数	36	51	49	49	33	14	30
	住民からの依頼による講習会参加人数	532	532	924	924	891	497	1,500

事務事業分析シート（平成21年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成19年度（決算）		平成20年度（決算）		平成21年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	一般需要	消耗品		167	消耗品	133	消耗品

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		18年度	19年度	20年度	21年度	目標値 (22年度)	
標	依頼による栄養講習会参加者数	924	891	497	800	1,000	

（問題点・課題分析）	<p>平成20年度から医療保険者に特定健診、保健指導が開始され、働き盛り世代を対象とする健診にメタボ対策（食事改善、運動不足）が導入されるなど栄養相談の重要性は増している。また、高齢者対策として後期高齢者医療健診も行われ低栄養予防を目的とした食生活改善支援についても需要増大が見込まれるため、適切に対応する必要がある。</p>
他区の実況	<p style="text-align: center;">（実施 22 区 未実施 区）</p> <p>区により取組は異なる。</p>

問題点・課題の改善策検討	
平成22年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
働き盛り世代の早世予防と子育て支援を組み合わせた事業についてテーマ、PRを工夫して継続して実施する。	働き盛り世代の早世予防と育児支援が期待できる。
高齢者に対する栄養改善支援として、低栄養予防教室や低栄養予防講演会を高齢者福祉課、地域包括支援センターと連携して実施する。	高齢者の身近にある包括支援センターでの実施により、継続的なフォローができるため食生活の改善が期待できる。
適正な食生活についての普及啓発を図るため、地域に出向いての講習会を拡充実施する。	身近な場所、要望に即したテーマの講習会を行うことにより区民の適正な食生活の改善が期待できる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	区民を対象とする栄養相談活動により食の健康づくりを推進するため重要な事業である。

議（要旨）	
-------	--

事務事業分析シート（平成21年度）

No1

事務事業名	無保険者の健康診査	部課名	健康部健康推進課	課長名	小竹桃子
		担当者名	田中 匠	内線	416
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（21年度）	無保険者の健康診査(01-02-01)				
事務事業の種類	新規事業（21年度 20年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	20年度	根拠法令等	健康増進法第19条の2
終期設定	有	無	年度		
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分
行政評価事業体系	分野	生涯健康都市[]			
	政策	生涯健康で生き生きと生活できるまちの実現[01]			
	施策	区民の健康づくりの推進[01-01]			
目的	糖尿病等の生活習慣病のリスクを早期に発見して、生活習慣改善のための保健指導や早期治療に結びつけることにより、区民の健康保持と生活習慣病予防に資することを目的とする。				
対象者等	40歳以上の区民のうち、生活保護受給者など、健康保険に加入していない区民				
内容	<p>【健康診査】</p> <p>1 実施方法 荒川区医師会に委託して実施。</p> <p>2 実施時期 7～10月（特定健診等と同時実施）</p> <p>3 検査項目 基本項目；身体測定、血圧測定、血液検査（肝機能、血糖、脂質）、尿検査 選択項目；胸部エックス線、心電図、貧血検査、眼底検査、眼圧検査</p> <p>4 周知方法 対象者（40歳以上の生保受給者）に受診券を郵送する。</p> <p>【保健指導】</p> <p>1 実施方法 民間の保健指導事業者に委託して実施する。</p> <p>2 実施時期 9月～</p> <p>3 実施内容 特定保健指導に準じて、健診受診者の階層化を行い、それぞれ動機付け支援、積極的支援を行う。</p> <p>4 周知方法 階層化の結果、保健指導の対象となった者には、保健指導利用券等を郵送し、利用を勧奨する。</p>				
経過	<p>老人保健法に基づく基本健康診査として、昭和58年度より実施。</p> <p>平成20年度の医療制度改革により、無保険者を対象とした健診については健康増進法に位置づけられ、特定保健指導に準じた保健指導も実施する。</p> <p>また、平成21年度から、社保加入者家族等への上乗せ健診（特定健診の項目に区が上乗せしている項目）を実施。</p>				
必要性	健康増進法により、区市町村が行うよう努める健診として定められたものであるとともに、区民ニーズの高い事業でもあるため実施する必要がある。				
実施方法	<p>（3委託） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）</p> <p>健診については荒川区医師会に、保健指導については民間の保健指導事業者に委託して実施する。</p>				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
		15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
予算額							32,530	36,172
決算額（21年度は見込み）							12,011	36,172
人件費							3,632	
【事務分担量】（%）							50	
合計（+）		0	0	0	0	0	15,643	36,172
国（特定財源）								0
都（特定財源）							4,470	8,336
その他（特定財源）								
一般財源		0	0	0	0	0	11,173	27,836
実績の推移	事項名	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
	健診受診者数（無保険者）						979	1,200
	保健指導利用者数						15	300
	社保家族等上乗せ健診							3,463

事務事業分析シート（平成21年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成19年度（決算）		平成20年度（決算）		平成21年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	一般需用費			受診票等印刷	374	受診票等印刷	424
	役務費			受診券郵送	331	受診券郵送	573
	委託料			医師会等委託料	11,637	医師会等委託料	35,175

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		18年度	19年度	20年度	21年度	目標値 (22年度)	
標	健診受診率（40～74歳）			26%	-	55%	特定健診の指標に準じる
	健診受診率（75歳以上）			33%	-	65% (24年度)	後期高齢者健診の指標に準じる

（問題点・課題）	<p>メタボリックシンドローム該当者やその予備群を早期に発見して、早期治療や予防につなげていくため、健診受診率の向上を図る必要がある。</p>
他区の実況	<p>（実施 22 区 未実施 区）</p>

問題点・課題の改善策検討	
平成22年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
<p>区報、ホームページ、区主催等で行われるイベントなどをこれまで以上に活用し、健診実施の必要性や実施の方法など、対象者に対し、さまざまな情報提供を行う。また、受診率向上のため、保護課との連携を強化していく。</p>	<p>対象者が健診に対して関心を持つことにより、健診受診率が向上し、メタボリックシンドローム該当者及び予備群が減少する。</p>

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
重点的に推進	重点的に推進	<p>区民の健康保持と生活習慣病予防を進めるための事業であり、優先度が高い。</p>

議（要旨）	
-------	--

事務事業分析シート（平成21年度）

No1

事務事業名	肝炎ウイルス検診	部課名	健康部健康推進課	課長名	小竹桃子
		担当者名	田中 匠	内線	416
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（21年度）	肝炎ウイルス検診(01-02-02)				
事務事業の種類	新規事業	(21年度 20年度)	建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	14 年度	根拠	健康増進法第19条の2
終期設定	有	無	年度	法令等	
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	生涯健康都市[]			
	政策	生涯健康で生き生きと生活できるまちの実現[01]			
	施策	区民の健康づくりの推進[01-01]			
目的	肝炎ウイルスに感染している者を早期に発見して治療等につなげることを目的とする。				
対象者等	40歳以上の区民で、過去に肝炎ウイルス検査を受けたことがない者				
内容	<p>1 実施方法 荒川区医師会に委託して実施。高齢者医療確保法に基づく特定健診等の受診者に実施する。</p> <p>2 実施時期 7～10月（特定健診等と同時実施）</p> <p>3 検査項目 C型肝炎ウイルス検査、B型肝炎ウイルス検査</p> <p>4 対象者 特定健診、国民健康保険健康診査、後期高齢者健診、無保険者の健診を受診する者のうち、過去に肝炎ウイルス検査を受けたことがない者。</p> <p>5 周知方法 特定健診等の案内（個別通知）の中に、健診受診時に肝炎ウイルス検診を受けることができる旨記載して周知する。</p>				
経過	<p>平成14年度より、国のC型肝炎等緊急総合対策の一環として、国の肝炎ウイルス検診等実施要領に基づき、老人保健法に基づく基本健康診査の中で実施。（荒川区では直営の誕生日健診と医師会委託の基本健診の中で実施）</p> <p>平成20年度の医療制度改革により、健康増進法の事業として位置づけられる。</p>				
必要性	肝炎ウイルスに感染している者を早期に発見して治療等につなげることを目的とする事業であり、必要性は高い。				
実施方法	(3委託) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員) 荒川区医師会に委託して実施する。				

		（単位：千円）						
		15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
予算・決算額等の推移	予算額						18,016	17,420
	決算額（21年度は見込み）						10,572	17,420
	人件費						2,182	
	【事務分担量】（%）						40	
	合計（ + ）	0	0	0	0	0	12,754	17,420
	国（特定財源）							0
都（特定財源）						5,754	8,907	
その他（特定財源）								
一般財源	0	0	0	0	0	7,000	8,513	
実績の推移	事項名	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
	肝炎ウイルス検診受診者数	4,747	3,884	3,778	4,435	4,625	5,000	5,000

事務事業分析シート（平成21年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成19年度（決算）		平成20年度（決算）		平成21年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	一般需用				受診票等印刷	106	受診票等印刷
役務費				お知らせ郵送	0	お知らせ郵送	0
委託料				医師会委託料	10,467	医師会委託料	17,288

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		18年度	19年度	20年度	21年度	目標値 (22年度)	
	40歳以上の区民に対する実施率	21.5%	25.6%	10.8%	-		受診者累計数 / 40歳以上人口
	【参考】年度ごとの受診者数	4,435	4,625	3,281	-		
	【参考】受診者数累計	22,510	27,135	30,131	-		

(問題点・課題)	<ul style="list-style-type: none"> ・未受診者の把握と受診勧奨の方法を検討する必要がある。 ・特定健診など区が実施する健診の対象外となっている区民（社保加入者ほか）への検診実施方法を検討する必要がある。 ・保健予防課が実施する感染症対策としての肝炎ウイルス検診との役割分担を整理する必要がある。
他区の実況	（ 実施 22 区 未実施 区 ）

問題点・課題の改善策検討	
平成22年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
医師会とも連携を図り、特定健診等実施医療機関に対して、積極的な未受診者の把握と検診の実施を働きかける。	特定健診等の対象者への肝炎ウイルス検診実施率の向上を図ることができる。
保健予防課とも連携し、特定健診等の対象者とならない140歳以上の区民への肝炎ウイルス検診実施体制を整備する。	特定健診などの区が実施する健診を受診する機会のない者への肝炎ウイルス検診実施率の向上を図ることができる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	肝炎ウイルスに感染している者を早期発見し、治療につなげる重要な事業である。

(状況)	
------	--

事務事業分析シート（平成21年度）

No1

事務事業名	歯周疾患検診	部課名	健康部健康推進課	課長名	小竹桃子
		担当者名	小室貴子	内線	423
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（21年度）	歯周疾患検診（01-02-03）				
事務事業の種類	新規事業	（21年度 20年度）		建設事業	それ以外の継続事業
開始年度	昭和	平成	17年度	根拠	健康増進法
終期設定	有	無	年度	法令等	
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	生涯健康都市[]			
	政策	生涯健康で生き生きと生活できるまちの実現[01]			
	施策	区民の健康づくりの推進[01-01]			
目的	成人歯科保健対策として生活習慣病の一つである歯周疾患を予防し、区民の口腔の健康保持および歯の喪失を防ぐ。また、身近な地域のかかりつけ歯科医の定着を促進する。				
対象者	当該年度に40・45・50・55・60・65・70歳を迎える区民 対象総数 17,688人（平成21年度）				
内容	<p>1 実施場所 がん予防・健康づくりセンター（月2回）と区内歯科医療機関</p> <p>2 実施方法</p> <p>(1) 勧奨通知 対象者には、誕生日の前々月に歯周疾患検診受診券を送付する。</p> <p>(2) 受診方法</p> <p>40・50・60・70歳を迎える対象者は次のいずれかを選び受診する。</p> <p>がん予防・健康づくりセンターで受診 受診希望者は指定日（歯周疾患実施日）の予約を行い、当日は「受診券」を持参し受診する。</p> <p>歯科医療機関で受診 受診希望者は受診時に「受診券」を持参する。</p> <p>45・55・65歳を迎える対象者は歯科医療機関で受診する。希望者は受診時に「受診券」を持参する。</p> <p>3 検診内容</p> <p>問診（歯科保健行動、相談事項の把握） 口腔診査（現在歯、未処置歯、処置歯、喪失歯、補綴歯の有無） 歯周疾患診査（歯周ポケット測定 CPI、歯垢、歯石付着状況等） 個別相談指導（歯みがき指導、受診勧奨）</p>				
経過	<p>平成7～16年度 がん予防・健康づくりセンターでの誕生日健診時に40・45歳を対象に成人歯科検診を実施した。</p> <p>平成17～19年度 誕生日健診で歯周疾患事業として対象年齢を拡大（40・50・60歳へ）して実施。 70歳の対象者は、区内歯科医療機関で委託して実施した。</p> <p>平成20年度 実施は直営・委託併用方式とし、受診方法は区民の選択制とした。</p> <p>平成21年度 対象年齢を拡大（40・45・50・55・60・65・70歳へ）して実施。 40・50・60・70歳は直営と委託の選択制、45・55・65歳は委託。</p>				
必要性	健康増進法に基づくものであり、区民ニーズの高い事業でもあるため実施する必要がある。				
実施方法	（一部委託） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 区（保健所）直営と、歯科医師会委託併用				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）								
	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度		
予算額			5,756	5,771	4,677	5,380	4,455		
決算額（21年度は見込み）			4,138	4,027	4,163	2,383	4,455		
人件費			2,015	1,904	1,927	2,702			
【事務分担量】（%）			27	59	59	86			
合計（+）	0	0	6,153	5,931	6,090	5,085	4,455		
国（特定財源）			1,169	1,147	1,109				
都（特定財源）			1,169	1,147	1,109	1,588	2,673		
その他（特定財源）									
一般財源	0	0	3,815	3,637	3,872	3,497	1,782		
実績の推移	事項名		15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
	対象人口				9,221	9,443	9,316	10,367	17,688
	受診者（直営）				996	971	1,023	740	960
	受診者（委託）				140	148	159	74	410
	受診者（合計）				1,136	1,119	1,182	814	1,575

事務事業分析シート（平成21年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成19年度（決算）		平成20年度（決算）		平成21年度（予算）	
		主な事項		主な事項		主な事項	
		金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）		
一般賃金	歯科医師・衛生士	2,977	1,819	1,819	歯科医師・衛生士	1,820	
一般需要	検診器材・印刷費等	231	194	194	検診器材・印刷費等	585	
役務費	通知はがき郵送料	107	0	0	通知はがき郵送料	0	
委託料	委託費	795	370	370	委託費	3,074	

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		18年度	19年度	20年度	21年度	目標値 (22年度)	
標	直営検診受診率（40・50・60歳）	15.0%	16.5%			25.0%	受診者数/対象者数
	委託検診受診率（70歳）	5.4%	7.5%			25.0%	受診者数/対象者数
	受診率（平成20年度～）			7.8%	8.0%	25.0%	受診者数/対象者数

（問題点・課題）	<p>1 平成20年度の歯周疾患検診結果によると口腔状態の健康な者は9.0%、要指導者は7.5%、う蝕や歯周疾患で受診が必要な者は83.5%と口腔状態を改善する必要がある者が非常に多い。</p> <p>2 受診率が低い。</p> <p>3 検診の精度管理が必要である。</p> <p>4 歯周疾患は生活習慣病であり、生涯にわたり健康な口腔で過ごすために、早期からの検診や教育等の取り組みが必要である。</p>
他区の実況	<p>（実施 22 区 未実施 0 区）</p> <p>健康増進法に基づく40・50・60・70歳以外の対象年齢は各区で異なる。</p>

問題点・課題の改善策検討	
平成22年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
受診率の向上を図るため、PRを積極的に行う。	検診の実施により口腔状態の改善を図る機会をつくり、区民の口腔保健の向上が期待できる。
歯科医師会と連携を図り、事業内容の向上を図り精度管理を徹底する。	精度の高い検診の実施により、受診者への的確な指導や治療ができる。
早期からの健康教育を実施する。	若年層からの知識の普及により、生涯にわたる口腔保健の向上を図ることができる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	歯周疾患の予防と早期発見のための検診であり、重要な事業である。

議会議決要旨	
--------	--

事務事業分析シート（平成21年度）

No1

事務事業名	受託健診	部課名	健康部健康推進課	課長名	小竹桃子
		担当者名	成澤友美	内線	416
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（21年度）	受託健診(01-03-01)				
事務事業の種類	新規事業	(21年度 20年度)	建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	50 年度	根拠	労働安全衛生法第66条
終期設定	有	無	年度	法令等	
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	生涯健康都市[]			
	政策	生涯健康で生き生きと生活できるまちの実現[01]			
	施策	区民の健康づくりの推進[01-01]			
目的	労働安全衛生法第66条に規定する定期健康診断の実施義務者等からの申し込みを受け、その従業員等に対する健康診断を実施する。				
対象者等	区内小規模企業（従業員数50名未満）の従業員、障害者通所施設の通所者等				
内容	1 検査項目（労働安全衛生法に規定する定期健康診断） 身体測定（BMI）、視力、聴力検査、血圧測定、問診、腹囲測定、診察（聴打診）、胸部エックス線検査、尿検査、貧血検査、白血球数、血糖検査、HbA1c、肝機能検査、血中脂質検査、心電図検査 2 実施回数 年間24回（毎月2回）。申し込みは電話予約等。1回の予約人員は45名程度。 3 検査費用（使用料）当日支払いとし、診断書料（手数料）は2～3週間後の診断書交付時に徴収する。				
経過	1 平成元年10月1日労働安全衛生法規則改正が改正され、検査項目に聴力検査、血液検査、心電図検査が導入された。 2 平成11年1月労働安全衛生法規則改正。糖尿病、高脂血症が増加する中で、生活習慣病の早期発見・早期予防のため、血糖検査、HDLコレステロール検査、BMI（肥満度）指数が導入された。 3 平成16年度より血液検査を民間検査機関に委託した。 4 平成20年度より特定健診の検査項目に合わせ、腹囲測定、総コレステロール検査に変わりLDLコレステロール検査が導入された。				
必要性	区内小規模企業における健診については、民間医療機関における健診体制が整備されたことに伴い、区が実施する意義が薄れている。今後は、障害者通所施設の通所者等、民間での実施が困難なケースに特化し、実施することが望ましい。				
実施方法	(2一部委託) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)				

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	
予算額	5,568	5,083	4,769	5,008	5,338	5,840	5,927	
決算額（21年度は見込み）	4,925	3,962	3,802	3,877	4,744	4,077	5,927	
人件費			8,452	2,135	6,526	10,161		
【事務分担量】（%）			127	25	105	152		
合計（+）	4,925	3,962	12,254	6,012	11,270	14,238	5,927	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）	6,107	5,630	5,103	4,495	5,840	4,925	7,502	
一般財源	-1,182	-1,668	7,151	1,517	5,430	9,313	-1,575	
実績の推移	事項名	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
	受診者数	1,216	1,120	996	909	891	851	900
	事業所数	221	223	185	169	174	172	

事務事業分析シート（平成21年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成19年度（決算）		平成20年度（決算）		平成21年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	一般賃金	医師等雇上げ	3,794	医師等雇上げ	3,163	医師等雇上げ	3,930
一般需用費	検査材料	171	検査材料	164	検査材料	379	
委託料	血液検査委託等	779	血液検査委託等	750	血液検査委託等	1,618	

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		18年度	19年度	20年度	21年度	目標値 (22年度)	
標	受診者数	996	891	851	900		
	受診率	1.39%	1.24%	1.19%	1.26%		

（問題点・課題）	<p>事業者は、健診の結果、特に健康の保持に努める必要のある労働者に対し、医師、保健師等による保健指導を行うよう努めなければならないとされている（法66条5）。平成9年に、荒川区に地域産業保健センター（国から荒川区医師会に委託）が発足し、労働者50人未満の事業所を対象に産業保健サービスを行うことになった。今後、同センターと連携し保健指導を図っていく必要がある。</p> <p>また、民間医療機関での健診体制が整っていること、利用者が一部の事業所に限られていることなどから、事業自体の見直しを行う必要がある。</p>
他区の実況	（実施区 未実施区）

問題点・課題の改善策検討	
平成22年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
事業所を対象とした健診制度の見直し	官民の役割分担の明確化により、行政としてより必要性の高い事業の推進を図ることができる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	企業従業員の健診は民間医療機関で実施可能であるが、当面は現状を維持する。

議（要旨）	
-------	--

事務事業分析シート（平成21年度）

No1

事務事業名	がん検診	部課名	健康部健康推進課	課長名	小竹桃子
		担当者名	中嶋良行・荒井良枝	内線	416
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（21年度）	がん検診費(01-04-01)				
事務事業の種類	新規事業（21年度 20年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	44～平成2年度	根拠法令等	
終期設定	有	無	年度	健康増進法第19条の2及び「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」（厚生労働省通知）	
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	生涯健康都市[]			
	政策	生涯健康で生き生きと生活できるまちの実現[01]			
	施策	区民の健康づくりの推進[01-01]			
目的	がんを早期に発見し、がん予防について正しい知識を広め、区民の健康づくりを目的とする。				
対象者等	がん検診対象者 胃がん : 35歳以上の区民 肺がん・大腸がん : 40歳以上の区民 子宮がん : 20歳以上の偶数年齢の区民（女性のみ） 乳がん : 40歳以上の偶数年齢の区民（女性のみ）				
内容	(1)検診事業：検診対象者に対し個別に検診の案内を送付する。ハガキ等で受診の申込受付を行う。受診者に対し受診結果を通知する。要精検者には医療機関での精密検査の受診案内を行う。 (2)がん予防教室の実施 (3)がん集団検診、予防教育に関する調査・研究 (4)がん検診従事者の研修（細胞検査士・放射線技師・看護師等）				
経過	平成 2年10月15日 財団法人荒川区がん予防センター設立 平成12年 4月 1日 組織改正により保健衛生部庶務課から保健福祉部保健福祉計画課へ事務移管 平成18年 3月31日 財団法人荒川区がん予防センター廃止 平成18年 4月 1日 組織改正により健康部健康推進課の所管となる。				
必要性	日本人の死因の第一位であるがんの早期発見及び予防のため、がん検診やがん予防教育は必要不可欠である。また、がん検診を通じて区民の生活習慣の見直し等自分自身の意識や行動の変容につながり、自らが行なう健康づくりのきっかけとなるため必要性は高い。				
実施方法	（2一部委託）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 平成17年度まで財団法人荒川区がん予防センターに全て委託して実施。 平成18年度から区の事業として実施。下記のがん検診の一部を医師会に委託して実施。 医師会委託 胃がん検診...年17回医師会館で検診車での検診 子宮がん検診...指定医療機関での検診				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	
予算額	183,759	189,778	197,212	326,181	248,637	246,263	241,357	
決算額（21年度は見込み）	174,287	187,364	188,831	273,417	214,486	209,930	241,357	
人件費			2,915	85,212	82,284	113,550		
【事務分担量】（%）			70	1,170	1,215	1,605		
合計（+）	174,287	187,364	191,746	358,629	296,770	323,480	241,357	
国（特定財源）								
都（特定財源）	5,519	4,346	1,646	36,416	0	0	0	
その他（特定財源）								
一般財源	168,768	183,018	190,100	322,213	296,770	323,480	241,357	
実績の推移	事項名	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
	がん検診受診者数	61,121	61,277	60,831	57,161	52,112	53,635	59,100
	要精検者数	3,307	3,070	2,671	3,052	2,990	3,338	
	精密検査受診者数	2,195	2,260	1,899	1,960	2,249	2,437	
	がん発見者数	66	54	43	81	43	55	

事務事業分析シート（平成21年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成19年度（決算）		平成20年度（決算）		平成21年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報酬	非常勤職員報酬	17,454	非常勤職員報酬	6,739	非常勤職員報酬	6,739
共済費	社会保険料	2,068	社会保険料	819	社会保険料	829	
一般賃金	看護師等	10,417	看護師等	4,990	看護師等	5,556	
報償費	精密検査結果報告書	3,374	精密検査結果報告書	3,890	精密検査結果報告書	5,807	
消耗品費	検診用消耗品	22,721	検診用消耗品	25,126	検診用消耗品	28,900	
印刷製本費	印刷製本（受診票等）	2,675	印刷製本（受診票等）	1,872	印刷製本（受診票等）	5,493	
役務費	郵送料（通信八ガキ）	14,690	郵送料（通信八ガキ）	14,452	郵送料（通信八ガキ）	15,807	
委託料	保守委託・検診委託	96,122	保守委託・検診委託	103,558	保守委託・検診委託	122,473	
賃借料	検診機器等	44,967	検診機器等	45,033	検診機器等	46,403	
	償還金利子及び割引料	0	国庫負担金返還金	3,450		0	
	備品修繕費	0		0	検診機器	3,350	

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		18年度	19年度	20年度	21年度	目標値 (22年度)	
標	受診率(%)	18.9	18.8	19.0	-	25	受診者数 / 対象人口
	精密検査受診率(%)	64.2	75.2	73.0	-	80	精密検査受診数 / 要精検者数
	がん発見率(%)	0.14	0.08	0.10	-		がん発見者数 / 受診者数

(問題点・課題)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検診希望者の増加に対応できるような検診システムを検討していく必要がある。 ・ 現在無料でがん検診を実施しているため、受益者負担について今後も検討していく必要がある。 ・ 要精検者と判定された区民が精密検査を受けないまま放置しないように、精密検査の受診率の向上を図る必要がある。
他区の実施状況	（実施 22 区 未実施 区）

問題点・課題の改善策検討	
平成22年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
土・日曜日も含めた検診回数を見直す。	受診率の向上が図れる。
受益者負担の導入を検討する。	がん検診費の財政負担の軽減が図れる。
要精検者に対してのフォローを積極的に行う。	精密検査受診率が向上し、がんの早期発見につながる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
重点的に推進	重点的に推進	がん予防とがんの早期発見により区民の健康づくりを推進するため優先度の高い事業である。

議会議決要旨	
--------	--

事務事業分析シート（平成21年度）

No1

事務事業名	特定給食施設講習会	部課名	健康部健康推進課	課長名	小竹桃子
		担当者名	根本直子	内線	4 2 3
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（21年度）	特定給食施設講習会（01 - 05 - 01）				
事務事業の種類	新規事業	（ 21年度 20年度 ）	建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	60 年度	根拠	健康増進法第21条、第22条
終期設定	有	無	年度	法令等	
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	生涯健康都市[]			
	政策	生涯健康で生き生きと生活できるまちの実現[01]			
	施策	区民の健康づくりの推進[01-01]			
目的	特定給食施設における栄養管理及び栄養技術の向上を図るとともに、各施設間のネットワークづくりを支援する。				
対象者等	区内特定給食施設に勤務する栄養士等（病院、保育園、事業所、特養ホーム等79施設）				
内容	<p>（1）講習会 特定給食施設に対して栄養管理業務の改善に必要な情報を生活衛生課実施の集団給食施設講習会で情報提供している。 区内の各職域（病院、保育園、福祉施設等）の栄養士に対し、外部講師による講習会を行い、より実践的な栄養管理についての学習を支援するとともに各施設間のコミュニケーションを図り、地域のネットワークづくりを支援している。職域別に年2回実施。</p> <p>（2）特定給食施設実態調査 年1回実施。</p>				
経過	<ul style="list-style-type: none"> ・平成12年度：第2ブロック特定給食施設栄養技術講習会の一部を組み替えて職域ごとの栄養士講習会として実施。 ・平成14年度：第2ブロック特定給食施設栄養管理講習会を本事業に統合した。 ・平成16年度：昭和50年から第2ブロック共催で実施してきた栄養管理者講習会と栄養技術講習会を各区の特性に合わせた講習会とするため解消した。 ・平成17年度：年2回講習会開催。 生活衛生課の開催する集団給食施設講習会にて情報提供を実施。 職域別に勤務する栄養士の技術の向上と地域のネットワークを図るための講習会を実施。 ・平成18年度：帳票改正及び保健所移転のため保健所栄養士による説明会を実施。 （栄養管理報告書の書式変更、幼児向け食事バランスガイドの活用について） 				
必要性	特定給食施設配属の栄養士は、少数配置のため給食対象者の栄養管理を行う上で情報が不足しがちである。そのため各施設間のネットワークを構築し、お互いに協力し合うシステムづくりを支援する必要がある。				
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 講習会開催案内を各給食施設長あてに通知				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	
予算額	101	93	62	62	62	62	62	
決算額（21年度は見込み）	91	88	59	0	58	56	62	
人件費			1,293	1,281	1,281	1,271		
【事務分担量】（%）			15	15	15	15		
合計（+）	91	88	1,352	1,281	1,339	1,327	62	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	91	88	1,352	1,281	1,339	1,327	62	
実績の推移	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	
事項名								
講習会参加数（保育園・病院）	33	39	67	87	46	50	54	
栄養管理講習会参加数	52	59						
集団給食施設講習会参加数			34	44	48	53	60	

事務事業分析シート（平成21年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成19年度（決算）		平成20年度（決算）		平成21年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費	講師謝礼	58	講師謝礼	56	講師謝礼	60
一般需用費	消耗品費	0	消耗品費	0	消耗品費	2	

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		18年度	19年度	20年度	21年度	目標値 (22年度)	
標	特定給食施設栄養士講習会参加率	112 %	65%	74%	80%	100%	出席施設数 / 対象施設数(70)
	集団給食施設講習会	56%	62%	69%	80%	100%	出席施設数 / 対象施設数(79)

（問題点・課題）	<p>特定給食施設における健康危機管理としては、食中毒予防やノロウイルス対策があげられるが、平成19年の能登半島地震、新潟中越沖地震など相次ぐ自然災害においても健康危機管理時の栄養・食生活支援の必要性があげられている。</p> <p>災害時における特定給食施設の対応についても「健康危機管理時の栄養・食生活支援ガイドライン」にもとづき検討しておく必要がある。</p>
他区の実況	<p style="text-align: center;">（実施 22 区 未実施 区）</p> <p>区により実施方法は異なる。</p>

問題点・課題の改善策検討	
平成22年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
<p>特定給食施設栄養士講習会で健康危機管理対策をテーマにあげ各施設の検討をうながしていく。</p>	<p>特定給食施設の危機管理対策について各施設で検討整備されることが期待できる。</p>

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	施設入所者等の栄養改善のため必要な事業である。

議会議況（要旨）	
----------	--

事務事業分析シート（平成21年度）

No1

事務事業名	ウォーキングロードのルート整備費	部課名	土木部道路課	課長名	伊藤 勝弘
		担当者名	小賀野 貴子	内線	2738
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（21年度）	ウォーキングロードのルート整備費（01-04-01）				
事務事業の種類	新規事業（21年度 20年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	18年度	根拠	
終期設定	有	無	21年度	法令等	
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	生涯健康都市[]			
	政策	生涯健康で生き生きと生活できるまちの実現[01]			
	施策	区民の健康づくりの推進[01-01]			
目的	荒川区生涯健康都市づくり戦略の施策の一つとして、区内の道路・公園にウォーキング道路を整備することにより、区民が日常的に運動を行うことができる環境を整備することを目的とする。				
対象者等	ウォーキングロード				
内容	<p><整備計画></p> <ul style="list-style-type: none"> 平成18年度～21年度(4ヵ年) 荒川区を南千住地域、荒川・町屋地域、日暮里地域、尾久地域の4地域に分けて、各年度毎に1地域ずつ整備する。 ルートマップの案内看板、ルートの変化点及び中間地点に誘導標を設置する。 <p><平成18年度>・南千住地域(汐入地区)</p> <ul style="list-style-type: none"> 2ルート：「隅田川の川沿い散策ルート」(河川管理用通路、距離 4.6km) 「新しい街並み散策ルート」(白鬚西地区再開発事業地区内歩道、距離 1.9km) <p><平成19年度>・荒川・町屋・尾久地域</p> <ul style="list-style-type: none"> 1ルート：「都立尾久の原公園周遊・補助306号線縦断ルート」(距離 4.6km) <p><平成20年度>・荒川・町屋・尾久地域</p> <ul style="list-style-type: none"> 1ルート：「(仮称)都電とバラの花ルート」(距離 約8km) <p><平成21年度>・日暮里地域</p> <ul style="list-style-type: none"> 1ルート：「(仮称)歴史と文化のルート」(距離 約5km) 完了(予定) 				
経過	<ul style="list-style-type: none"> 平成17年度：荒川区生涯健康都市づくり戦略の施策の一つとして位置づけ 平成18年度：南千住地域に2ルートを整備 平成19年度：荒川・町屋・尾久地域に1ルートを整備 平成20年度：荒川・町屋・尾久地域に1ルートを整備 				
必要性	生涯健康で生き生きと生活できるまちの実現を図るため、区民が日常的に運動を行うことができる環境を整備する必要がある。				
実施方法	(3委託) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)				

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	
予算額				4,548	4,548	5,668	9,448	
決算額(21年度は見込み)				3,675	3,854	5,460	9,448	
人件費				2,135	3,416	4,659		
【事務分担量】(%)				25	40	55		
合計(+)	0	0	0	5,810	7,270	10,119	9,448	
国(特定財源)								
都(特定財源)								
その他(特定財源)								
一般財源	0	0	0	5,810	7,270	10,119	9,448	
実績の推移	事項名	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
	ルート整備地域				南千住	荒川・町屋、尾久	荒川・町屋、尾久	日暮里

事務事業分析シート（平成21年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成19年度（決算）		平成20年度（決算）		平成21年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	工事請負費	案内看板・誘導標設置	3,854	案内看板・誘導標設置	5,460	案内看板・誘導標設置	9,448

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		18年度	19年度	20年度	21年度	目標値 (22年度)	
標	ルート整備地域(累計数)	1	2	3	4	4	南千住、荒川・町屋、尾久、日暮里の4地域

（問題点・課題）	<ul style="list-style-type: none"> ・都道を含めたルートを選定する場合には、道路管理者である東京都第六建設事務所の了承を事前に得ておく必要がある。了承済み ・区の東西地域を結ぶネットワークを形成するため、隅田川沿いの堤防整備に合わせて、河川管理用通路やテラスを活用したルートを検討していく必要がある。
他区の実況	（ 実施 区 未実施 区 ）

問題点・課題の改善策検討	
平成22年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	区民が身近な場所で運動ができる環境を整備するための事業であり、重要な事業である。

議要旨	H15年二定：あらかわ遊園内や尾久の原公園の散歩道や区内の史跡、名所めぐりの紹介にあわせたウォーキングコースを設定して、楽しみながら運動を継続できる環境づくりに努めること
-----	---